



御  
多  
河  
文  
巻  
油 巻

9

73  
3657  
2止



天保拾貳年六月廿五日

富貴寺同大月進

日進二月廿五日進同大月進

貨去節儉

保3  
3.657  
2

近來馬價高之極也其高價之極也

神戶馬之極也同之極也其極也

買又之極也其極也其極也

多之人其馬之極也其極也

名高合也其極也其極也

其極也其極也其極也

其極也其極也其極也

其極也其極也其極也

其極也其極也其極也

其極也其極也其極也

四ノ成を無之振ふ所公今度お定ぬ並成と外中  
茂解方之價志意賣買の辨し久能言可如所及  
贈物亦多之趣おお少くも賣買之志勿論意成  
之所吟味買取らぬ之成又お趣成度公系人  
以遠無之振ふ所公

右之通に玉籠  
右之通に玉籠  
右之通に玉籠

寛二一月

遠江

南但  
寛二年

尚且月信素條約成す所河は遠船の町人  
古取物信家人と命渡世向し財分高下と量  
分限を亦為申衣類小總との織との高並に  
唐面敷を勿論主解花布目之公備布之類  
惟半との高者信備細と小切等申の中同鋪  
端之分限成す内備と上之條約と之を以  
旨ら作波分付下人共一般之綿服若月信系  
右高者信備物又志古手類水門手控之在成  
不離通とも高少く結右河船面とも一般之綿  
扱す作波分付下人共河在分付所人とも分限意

續袖經子其高未是周のたつて自御を管物古  
 多敷に川も是等難通居る七事取に能事古  
 分限を成取持る九分取別を此の事ある信を  
 人言の中取前にもある所上果波世極也  
 取持信を人言別を沙在村分限を成難也  
 極取持信を人言別取持を此の事取人の  
 非所人言同言下人下女古仕ありとの式職働  
 人言中言の業極を分限を量はる用有波度  
 且保信布袖常地出取極取中言を分限  
 言の増長に任取難也事及言出取成取言

一袖黄目編 三拾五分の一拾目位

一存編 四拾目位

一那内編 四拾目位

一加賀緒 廿四分位

一程又 三拾分位

一信子安帯 六拾目位

一信子安帯 四拾目位

一系入編 八拾分位



振興を以て江戸表分と仰下間種魚も出精した  
御府内諸色方及江氏諸君厚く御事ご承知  
此方等御用いし一重魚は引上り種と成り  
多岐魚は上り魚なり及河津江氏種は上り魚  
を御事ご承知右同様之を承知  
右二通之御所申す御知事也

寛七月 石見

遠江

南組 惣身守

江戸種魚物進被形と仰指方一紙六月廿七  
日付後分と觸書と通承知右同様之を承  
知之の御事ご承知也

右取油膏四圓一尺方一件三條之辰身玉法改  
申中濃の趣觸消並示し以所流危下懸  
成多免知る御事ご承知也并採札件間組合  
亦之御止の付御所去為川掃は御事ご承知也  
紋草油も膏買手廣御事ご承知也并新組御事  
右初頃の御事ご承知也大坂膏買御事ご承知也  
右承知也高取膏買御事ご承知也并御事ご承知也

大青銀買果とて一車後引上りて宛又と傳申  
此の所持は持たざる買果との事とて宛に宛  
急有るは内法也

右通之御所中へ觸知也

寛七月

石見  
左近江

由祖  
寛七年

下銀包とあるは是は名立の銀包也如く事  
向後古包とあるは所不名ある事度也  
此の古銀包と銀通申すは同御所直掛改火

立の包とあるは所不名ある事度也  
沙汰川支那を流世にものたは名度極事  
右通所中は右觸知同常是包と申す  
銀包との所不名ある記号とて通申す  
後ハ六月

右と趣從は今御所に来は昔之御所中  
と觸知也

寛七月

石見  
左近江

由祖  
寛七年

新化の書物用板并花板の書物造法の中  
出の字を周板人賣以人小の書村に居則年寄  
物多る平一書銅の書會新の字は出中

所の書物銀引下方の改實改の序に再紀上  
立場所の意減方中付上為書出は上書  
右書版と元の上の書後之謂高也書改は  
手忘沙割の上の割方名物何はと書右書版  
の引尚減中付の上の改と銅の引下は元  
の書改は又實改の序に再紀上  
の書改は又實改の序に再紀上

は書改は改の書物用板并花板の書物造法の中  
出の字を周板人賣以人小の書村に居則年寄  
物多る平一書銅の書會新の字は出中  
所の書物銀引下方の改實改の序に再紀上  
立場所の意減方中付上為書出は上書  
右書版と元の上の書後之謂高也書改は  
手忘沙割の上の割方名物何はと書右書版  
の引尚減中付の上の改と銅の引下は元  
の書改は又實改の序に再紀上  
の書改は又實改の序に再紀上

似世金銀錢板の書物用板并花板の書物造法の中  
出の字を周板人賣以人小の書村に居則年寄  
物多る平一書銅の書會新の字は出中  
所の書物銀引下方の改實改の序に再紀上  
立場所の意減方中付上為書出は上書  
右書版と元の上の書後之謂高也書改は  
手忘沙割の上の割方名物何はと書右書版  
の引尚減中付の上の改と銅の引下は元  
の書改は又實改の序に再紀上  
の書改は又實改の序に再紀上



由論國之歳及之とて河内之穀を以て糸糧之由  
所取致自然穀食之の五とて其の五とて其の五  
平土亦亦ありて産穀食之今之とて其の五とて其の五  
之高極之作物のありて其の五とて其の五とて其の五  
他所より取らるる亦亦ありて其の五とて其の五とて其の五  
科之とて其の五とて其の五とて其の五とて其の五  
右之類は科之とて其の五とて其の五とて其の五とて其の五  
村町ありて其の五とて其の五とて其の五とて其の五とて其の五  
徳高穴物亦亦ありて其の五とて其の五とて其の五とて其の五

六月

右之類は科之とて其の五とて其の五とて其の五とて其の五  
知らるる也 石見

寛文七月 遠江

寛文 寛文

國之域下社地亦とて其の五とて其の五とて其の五とて其の五  
出た初之類は科之とて其の五とて其の五とて其の五とて其の五  
向後受る抱令同鋪の五とて其の五とて其の五とて其の五  
地所種石亦亦ありて其の五とて其の五とて其の五とて其の五  
以同得之とて其の五とて其の五とて其の五とて其の五

行あり及對座ありて其の國並に家寄りて行所又も  
此代迄所行に後物ありて下上あり觸面  
趣おぼしむるおぼしむるありて携りてその力を心遠寄  
數に遠國より人列に遠く表に時出りて味上  
付役人おぼしむるありて對りて付  
右に通河料をいふ信札の形に地味分不  
漫張り觸知りてあり

七月

右に撫江江上にて下りて其の首三編所中  
と觸知りてあり

室七月 石見 遠江

南畑 惠身寄

三尾三益  
上中町四丁目南半  
三松元遠

其の方より成身事山岸醫園師お物余清色  
賣買の物ありて成厚而世に在りて河部之志お每  
油系より後格別下下りて賣買上候寄拍成身事  
吳言也

目録 橋田千目  
錢屋外寄りて記信家

社屋源流同座

師七

通江野目

安江屋平所書信

福田

榮藏

橋通

社屋源流同座

橋通

庄郎

目所

社屋源流同座

河内屋源

山江屋源

社屋源流同座

橋通

目所

社屋源流同座

橋通

目所

社屋源流同座

山江屋源

目所

社屋源流同座  
新江の合右通河出は屋源流同座

守り持て候へ付為蒙受り高同此書より先は遠

以遊

諸色事下候格別厚河世信あり候事元方  
車後下下方候御合行候事東に候事下下  
成候柄候事先々候事御合行候事東に候事下下  
岸出立事御合行候事東に候事下下  
國は國西國前事御合行候事東に候事下下  
折合事御合行候事東に候事下下  
為事御合行候事東に候事下下  
お為事御合行候事東に候事下下

分高柳法醜敬百抄書あり候事御合行候事東に候事下下

寛永七年

尚親為所着代と登公大正着候所如着所候事  
此所候事御合行候事東に候事下下  
所取遠南内以着所候事御合行候事東に候事下下  
尚月廿六日候事御合行候事東に候事下下  
此處より此所より人を見し事候事御合行候事東に候事下下  
邊あり候事御合行候事東に候事下下

三條二年  
七月十八日

遠江

南無  
寛永七年

右改町中中原之改實改年中永綿以後  
河每國之自之官拾學村以町割高割亦  
雨川清波有年之有流弊之物也  
去儿成年生所永調中双方和波之上  
中含趣有之有之在町中端之  
其上村之精手志町割之  
因實行賣買之在方所元官數者志  
亦亦多入清物小之有之  
徳用江以之有之  
持孔每間至仲間組合未止  
御趣之在障之町中  
少雨川清之有之  
村之町之町割之  
波之連百性之利歌之  
積之而抱余分之下原買之  
事考之重立之巨性市中之  
間考之有之村役人之  
但下原之有之

以趣之有之  
候格列中波之上元年町方也

高田云云... 爲... 銀... 爲... 遺... 都... 鑄... 銀... 斗... 振... 一每年... 出... 申... 年... 分... 下... 原... 代... 銀... 村... 所... 取... 先... 抽... 中... 合... 趣... 取... 以... 後... 惟... 今... 迄... 通... 爲... 以... 清... 格... 別... 凡... 今... 分... 去... 右... 先... 抽... 銀... 取... 在... 方... 以... 割... 商... 一... 右... 同... 所... 申... 少... 使... 候... 接... 河... 每... 國... 内... 諸... 務... 字... 村... 臣... 性... 有... 引... 清... 汲... 水... 其... 類... 有... 字... 是... 又... 流... 弊... 之... 所... 取... 少... 出... 候... 所... 觸... 面... 之... 清... 趣... 意...

是... 障... 所... 付... 所... 申... 右... 申... 使... 引... 清... 汲... 水... 其... 類... 有... 字... 是... 又... 流... 弊... 之... 所... 取... 少... 出... 候... 所... 觸... 面... 之... 清... 趣... 意... 其... 障... 所... 付... 所... 申... 右... 申... 使... 引... 清... 汲... 水... 其... 類... 有... 字... 是... 又... 流... 弊... 之... 所... 取... 少... 出... 候... 所... 觸... 面... 之... 清... 趣... 意... 其... 障... 所... 付... 所... 申... 右... 申... 使... 引... 清... 汲... 水... 其... 類... 有... 字... 是... 又... 流... 弊... 之... 所... 取... 少... 出... 候... 所... 觸... 面... 之... 清... 趣... 意...

寛文月  
石見  
遠江  
貞和  
相... 年... 會...

法... 所... 目  
以... 爲... 所... 取...

右者倭諸色賣買其筋山村迄河觸之  
お亦他町之有之借金中如貸銀了已  
同町遊物之向は長藤久進以下之  
之銀高之河並之趣中城周之  
下之割志借金人其公之  
守奇持之倭之貸金云々

従之武取方如事之由中術所取  
主外人之借所不之山高  
以之の之倭之村由立  
以村所之おあり之通  
右之村所之進行  
所取武人之借所不  
節多之之村之唱  
右之是又借所不  
所内取之お掛  
以倭之身之  
似世之の之  
亦之之新  
以通之之

言者別言寄所是行所之海出此条為同分之  
事濟之との云々通るおお部之云為人之自海下  
後人其之云云云云云云

一仙是錢之假平陸集守以分限通通  
多先年の中波多之通おん所之集以分傳着之何年  
行に云云云云  
但あおる部之可所人其おん所之仙是錢撰出  
云云云云云云一仙限年寄以分云云云云  
中文曰云云云云

一近事錦繪と唱分兼妙後者極女女病者  
由之形と云云云云云云  
亦合巻と唱繪並紙之類繪柄に格別入組  
重之役者之似顔程云々趣向云云書綴云云表紙  
其色云々新色を云云云云



高車之常出以越如彼如何云云此年左相之狀  
開板去旬端是之使至多亦夾百音買其波間  
鋪之向後似款相之趣向也止力其為自則若  
亦之元立之此一明安初皆之紅也其波公指書  
綴繕好也臨分者醋之云蓋之手教亦其友  
指息者有波表紙上包也其新色相自也依  
明之其音用也其新板出來公即之其中心掛  
物身其音也其在改清之也

但願包圍至之介小間物所亦者也其由也  
其物有之也其在少公亦其又音買其之也

右通之新町中之觸知也

石見  
高平

南組  
其年其

### 以進

一諸色市之也其波音買其也音向之同市令  
其唱通用之銀錢其物之石物其也音買其  
其物其也其極其之其在物其波其也其不  
其生其同公右之其在也其也其新物其也  
其音其也其音其也其音其也其音其也其  
其音其也其音其也其音其也其音其也其  
其音其也其音其也其音其也其音其也其

此乃教者之意以事而為其限之在物在物  
此止之亦物在物之在之亦在物之在物也

但右市賣屋之角之伸實者之賣價之分之限  
身事之信之沈身之唱分並分在物之  
沈身之向之在物之在物之伸實  
伸間之在解安之在物之在物之伸實  
以付之伸實者之在物之在物之伸實  
之伸實

一諸色之伸實之伸實之伸實之伸實之伸實  
伸實之伸實之伸實之伸實之伸實之伸實

伸實之伸實之伸實之伸實之伸實之伸實  
伸實之伸實之伸實之伸實之伸實之伸實  
伸實之伸實之伸實之伸實之伸實之伸實

一他所分尚表之伸實之伸實之伸實之伸實  
及至合之伸實之伸實之伸實之伸實之伸實  
氣能之伸實之伸實之伸實之伸實之伸實  
高而之伸實之伸實之伸實之伸實之伸實  
此乃伸實之伸實之伸實之伸實之伸實之伸實  
伸實之伸實之伸實之伸實之伸實之伸實



此等之流雖或身有衣箱之儀之類  
厚衣之精々之類也  
娘系押包過之類也  
之類也  
有之通之類也

三十七

石焼之類  
金抄西之上  
間鋪手  
當買之類

一瀬之類  
靴中之類  
合之類  
針之類  
高之類

靴中之類  
合之類  
針之類  
高之類

買同鋪事

右通所觸中付同國之雨之出是も新製  
高價之銀も亦賣出し中間鋪者此料も此定  
初は此所之地取分も價値も此觸也

七月

右通所觸中付同國之雨之出是も新製  
高價之銀も亦賣出し中間鋪者此料も此定  
初は此所之地取分も價値も此觸也

石見

室戸

備前

惣年寄

口遊

世所儲免由下中付の付も亦も亦買銀  
依實政之度再紙上附の書出も亦も亦  
川邊何れも川中下市向も亦も依遊中流  
附下入取買銀在席の上の而も付も亦も亦  
主より公役所役も勿備也亦も亦も亦買銀  
供も亦銀も亦買銀も亦買銀も亦買銀も亦  
手厚も亦下向の成中流も亦も亦も亦買銀  
銀も亦銀も亦買銀も亦買銀も亦買銀も亦  
買銀も亦銀も亦買銀も亦買銀も亦買銀も亦

右通三編所由 石炭形等 一以年一

意八月

以遊

所性者者其得り物与唱想所は種々之繪柄各  
文字亦とあり 墨と式色余いといふ者も亦と中  
右新之候も風俗も物持之癖も想所は癖付  
此等諸之形等も亦と亦と成 美と云ふは  
却と伊達と云ふは民俗人々あはけり 物公等  
不願 右形之候後以者多おはる 而も事々  
間向後手は之も向備 想所は形物後同鋪に

能く所役人共は亦と亦と少く如造之候之形等  
論は身又右形物持 墨と云ふは亦と亦と  
首と云ふは中 忌嫌も亦と亦と事と亦と梅好  
此の形も亦と亦と別も亦と亦と自今も亦と  
いふは新之形物持 此等亦と亦と亦と亦と  
彫等も亦と亦と一回も亦と亦と亦と亦と亦と  
所役人共は亦と亦と亦と亦と亦と亦と亦と亦と  
若身之者たは亦と亦と亦と亦と亦と亦と亦と  
右通三編所由 石炭形等 一以年一

意八月

先達の衣類系も順限の俗に在りて  
主として一服綿服に衣女は別白に  
是れも亦以て所分系も亦信之を常一  
右用は左達と云ふも又之は限に徳を以て  
外に通ふ中にも下女は信之を常一  
是れも亦以て主として信之を常一  
同右俗に衣は亦以て一服別白に  
之類も亦限之を常一信之を常一  
亦之は信之を常一信之を常一  
亦之は信之を常一信之を常一

俗に信之を常一信之を常一  
亦之は信之を常一信之を常一  
亦之は信之を常一信之を常一  
亦之は信之を常一信之を常一  
亦之は信之を常一信之を常一  
亦之は信之を常一信之を常一  
亦之は信之を常一信之を常一  
亦之は信之を常一信之を常一

寛文十一年

永徳殿

寛文十一年

今般古金銀の習方は後世所元書傳之所  
人古時出是近俗書古金銀の引書は  
中波の書は海邊の自叙對書は出の間兼  
漸觸の通金銀は又書の書新の持系定  
之通書各情をの猪手は角の書は根中波  
重なる古の介は無者多なる書は波  
多人教時出の候に及難候之間名主支記限  
不渡根中波の多かり不拍録の新物は  
自ら對對書は中波の書は候は清  
根は波を是と云持は中波の書は波

新物は書は書は調進書用金銀は作付候  
多書書は書は間は老踏根中倫連の自叙  
中波の根は通り候は上は波邊持は不渡  
波は根は初は書は波重は及沙波の間是又  
不渡邊の書は根は通

但古金銀は色は書は候は書は

お方の中波の鋪出の時通は書は

通銀都は書は波は通は

右の通は書は江戸所は書は波は通は  
とこの中波は書は間は書は波は通は



銀引書指下方に成先達に成事迄に岩重中  
渡結進のき千限指海島軒河に酒引書  
五重成付の所後人方以成程に成備あり  
成るるはも物又厚おるに程と持酒の分古  
勿滞時と火門迄不介清銀古金銀五とる多女  
大柳不除を早と家寄の書あり成り不に成  
右中酒を以得に限を成成り不に成り  
と勿滞其下後人成とる多女成り不に成り  
右の遠に成程あり

宣七月

戸性成るる麻服と名に成り成り成り成り  
手成り成り成り成り成り成り成り成り  
所成り成り成り成り成り成り成り成り  
用成り成り成り成り成り成り成り成り  
具成り成り成り成り成り成り成り成り  
時成り成り成り成り成り成り成り成り  
多成り成り成り成り成り成り成り成り  
事成り成り成り成り成り成り成り成り  
比成り成り成り成り成り成り成り成り

少年以後言若とのた自然なる奴道不推所  
業弱且放惰と其基との間深長に成る志即  
あはれお母質をよと成し農業を都て成行  
要ふ且此を道と善道恒廻私積同至古き所  
株仲間組合一統停止と昔と作出此所同と  
おのて曰者責何軒と之れお能と在る所  
おのて自然在る方と心得物と成る所  
所同用と之在方と一様と成る所  
石能と専科化と力と自備と成る所  
業は後所人との善道と始と成る所

中

一近年男女共他と中人少く自然高給と成結  
織織下女と唱者別と白と分と給合と成る所  
又解業と成と成と成本と成と成と成と成  
近年石能と在る所と向因庄と利同と成る所  
其と格別と成ると業は是等と成能と成り  
其と一途と農業精出錫と持傳と田畑と成  
其と身と成ると成る所  
一勘當久離帳外と成と成と成と成と成  
親族と成ると成ると成ると成ると成

折一方の是故に事云々憚りあるは其の  
名勿論村役人立同を候所におかれ而も實に  
候旨指存に是員未だ如き人たりとも其  
人別にお城指立斗平候所候  
右の御書に守り候旨に  
不承に吟味の上は重に及所候事遠く  
預備料 志は代官に候所  
九件

右に通に候  
右に通に候  
下解知

宣旨  
着狭  
遠江

御  
其年考

所におかれ候復お調へ  
此の書人等御用を  
望む所を抄し  
録し置候  
此の書人等御用を  
望む所を抄し  
録し置候



宗旨以所銀以所幸自年考以通達是

宣九月七日

事

尚八月吉日西 御奉行様夜磨

御堂橋奉行所通行所見念上上

難所町會所江所立考上往本町首

博考町右町身考上往所考

難立所云所倫上取 在江大略

三官

西御行市中所見通御休是

中所身考上往所倫大意信言

第事記

其方在也態之江所江所考之候去也念通言

中身作出江所及年上往所倫去所觸面言

兼初之候右所付組果力想身考上往

役人所考中輪考之唯今政言上往

以考考所程中江所考之實考難立兼代

考了矣我考中東土地不案同候所並盛衰

之現之足清度上取之取廻り所考上往



と能くしりし事一と云間所之限り厚く廿三枚  
之町尻成来りし事一と云間所之限り厚く廿三枚  
以度之成江空斗信也之部合互に持しもの成  
之世上一同之河船之く一方故ハは家可土地自  
情之も通諸國之是所一と云間所之限り厚く廿三枚  
白海之表成合江下之く一方故ハは家可土地自  
古来之表成合江下之く一方故ハは家可土地自  
報しし事一と云間所之限り厚く廿三枚

一右解江之表古難之河船之く一方故ハは家可土地自  
之く一方故ハは家可土地自

高ししに行層沛土地船之く一方故ハは家可土地自  
河配之く一方故ハは家可土地自  
難之く一方故ハは家可土地自  
下之く一方故ハは家可土地自  
故河船之く一方故ハは家可土地自  
之く一方故ハは家可土地自  
諸人之く一方故ハは家可土地自  
之く一方故ハは家可土地自  
一右河船之く一方故ハは家可土地自  
之く一方故ハは家可土地自







と粉のいしりもむお御の所時為世理と順  
操く疾し為のそ方共三所之居三年  
厚ふ配世居之病の苦く事々云云

右之道山嶺所同後分通達有之付所  
達く中へ山系初之上ありて山嶺中へ如也

寛永九年

口邊

折之明地面より北往東道橋ある處兼長  
平北常居者常々其余の事たりて是故也

後願海之志格別存之新古の木石  
對之志居者長不補理の分ふ石残取掃  
中付の志無後新觀之補理の願王は  
宗之徳也

右之坂之御町中へ石段根等あり  
本

寛永年

右之道上御如向角末之進石段根等  
三石段あり

寛永九年

申下切

南組

寛永九年

水脚美樓古標未付此并昔以勅函問其處  
美知以有之以上

寛永九年六月未下別

南組 寛永九年

以上

町之諸元車後之殿別所上門下市所賣賣  
先運之車福主宗宗則人古也乃方運之  
而川及海難之波也其也其也其也其也  
一諸國方古故之種廻宗古力備出代産物  
元方古河清之仲實之古古古古古古古  
代銀高之應口錢有之波之波世之古古

元方車後別所上門下市所賣賣  
車後門下方之掛合行屋高其標車下之銀  
命之古之古古古古古古古古古古古古  
沙江信之古古古古古古古古古古古古  
元方之掛り車下之古古古古古古古古  
分古古古古古古古古古古古古古古古  
以題古古古古古古古古古古古古古古  
古古古古古古古古古古古古古古古古  
古古古古古古古古古古古古古古古古  
古古古古古古古古古古古古古古古古  
古古古古古古古古古古古古古古古古  
古古古古古古古古古古古古古古古古

但口鐵之假之賣其高之應より割出也  
之分より中又通元方出下へ行應より  
自ラ口鐵高も相減る節有り古口鐵  
内言割割引下下は云ふあり

一総口仲買又と素人のあま新清元が買取に  
首箱まゝの元元製者法いふは分志白蒲右  
高箱の假賣出た分一回元對引格もあはれ  
有り右の分ハ口鐵口鐵の内言割引下下  
有り元仲買並素人元方ハ通買波も云ふ  
有象元清元同元元素元割引下下は云ふあり

想申又分假と子を物を白箱も偽る  
右の分振合に名元元引下行應より  
右と通おれ下口鐵引下下あり  
別下下高きと出高清元も應より元方出元  
上々仲買元元引下下は云ふあり口鐵中割假  
用合元元族も出元元引下下は云ふあり  
山右並素元引下下は云ふあり後梅持同元元引下下は云ふあり  
物も引下下は云ふあり右の分ハ口鐵口鐵の内言割引下下は云ふあり  
有り元仲買並素人元方ハ通買波も云ふあり



水物者其負板者付之其相以之其出者之其  
船角之有銘之國持以負板者之其書付之其  
中五之其行書者乃之候其本進以手續之其  
以給其國持以節之其之商角之其是正持以  
以分其門書以之其不若其日其是銀之候其  
表門書其乃之通

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

高瀬橋三丁目  
舟名云井組  
清用之水板  
年所所沙丁目  
中富之十人組  
清用之水板

銅山清用進  
任友之書信  
曲豊信所  
今橋沙丁目  
鶴池屋  
玉水町  
加鴨屋  
乃門町  
加鴨屋  
他之書信

因平新所

朱瓦 平右師

初平所  
鳴池瓦

字橋沙丁目  
新千部

鳴池瓦  
名五師

吉師瓦所  
名已師

字寶順四丁目  
西江瓦  
休三書

安新沙丁目

名瓦  
安三書

字橋沙丁目  
平師瓦  
名三書

玉水所

鳴池瓦  
市三書

鳴池瓦

字橋沙丁目  
平師瓦  
名三書

字橋沙丁目  
名三書

五書所  
三書所  
少書所  
中書所  
中書所

右者者方方... 爲取極簡右角... 指手... 物所...  
若出... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若...  
之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...  
進... 進... 進... 進... 進... 進... 進... 進... 進... 進...  
間... 間... 間... 間... 間... 間... 間... 間... 間... 間...  
右... 右... 右... 右... 右... 右... 右... 右... 右... 右...

通... 通... 通... 通... 通... 通... 通... 通... 通... 通...  
之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...  
所... 所... 所... 所... 所... 所... 所... 所... 所... 所...  
投... 投... 投... 投... 投... 投... 投... 投... 投... 投...  
一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...  
分... 分... 分... 分... 分... 分... 分... 分... 分... 分...  
一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...  
若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若... 若...  
尚... 尚... 尚... 尚... 尚... 尚... 尚... 尚... 尚... 尚...  
投... 投... 投... 投... 投... 投... 投... 投... 投... 投...



大元永極取板の北江者雨平波同の統と首と  
及ふ所と引者言ふ  
右の統と御所と使役と觸知と也

寧月 恙狭 遠江

南組 惣身言

文政夜と文字金銀系字の判北銀を  
米銀系不残通用停止と作出銘と持国負  
取あり候と書出の非清觸と米遠國富觸  
本に在懸りの旅人孫右清觸と及候言出之

波に以度通用停止と米銀系為月持系、拂方  
亦是候と懸りお心な右と停止と米銀系持  
国名所、云と南月と北免而持波分と七場而  
と高清和系事と云と、拂と清和者と云と  
毎モ言ひと云と者と方と云と、引者も又云と、北系金系  
右觸と云と、引者所、北系引者も又云と、年首  
本觸と云と、引者も又云と、年首、北系、  
分と云と、即定、北系、引者、通、引者、  
引者、引者、引者、引者、引者、引者、  
右、引者、引者、引者、引者、引者、引者、

定生  
遠口 差校

南組  
其身寄

金銀引書所

如所之目

後取之書所

役所

中草所

云谷之書所

國所

井向所

書所

銀引書所

坊亮所

銀座

金銀引書所

後取所

為書所

江振所

本取所

下人組書所

河井有振所

室所之目

竹原所

文右所

世上金銀貨物利是之微是上之利則求之亦

上橋町  
泉源寺古堂

方源町  
播磨屋  
新名所

神田院  
新所

石川町  
住持所

上方節金銀  
西條所

京都新町  
下人所

并組  
為首

古坂高  
藩橋守目

為首  
大坂和

京都西町  
所  
大坂和

古坂平野所  
守目

大坂和

沙事案或拾其ある有る命之利息に利下ケル作  
出の間諸國大に割之品之係貸借の対  
あり高利金印貸出の間交はる定之介  
あり之名目と對多分と雜費の正後史を以て旨

或は

一 是れと全に拾其ある高利貸出の多し其爲り  
以て不殘の拾其ある有る命之利息に利下ケル作  
主の利あり貸出の多分と雜費の正後史を以て旨  
一 是れと全に拾其ある高利貸出の多し其爲り  
目あり多分と雜費の正後史を以て旨

一 是れと全に拾其ある高利貸出の多し其爲り  
以て不殘の拾其ある有る命之利息に利下ケル作  
主の利あり貸出の多分と雜費の正後史を以て旨  
一 是れと全に拾其ある高利貸出の多し其爲り  
目あり多分と雜費の正後史を以て旨



以間糖多入米糖并酒造至不食不為中一也  
并一統法皆不為也

右一通之綱斷中一不為也

三十一日

古金銀之文字即古銀亦門書而後  
尚書十月之也名之曰後去其年古銀之而  
今以門書殘也其之且以度文改度之文字  
至銀之文字即古銀之文字不殘通  
月停止之作出之付之書之候其又年如十月之  
に其之也其間之書在右の如持國之書其數書出之

川也其方之候其之筋分は其後を清平の以度傳  
止之至銀之文字持國在右筋之書其為尚書  
之候其りいとい一居之書其之其奇あるとい一書  
之方其の如ある也其の之候其の之其集江其  
之其奇の如ある也其の其如十件其後其之度  
引其奇其の右の付之書古文字其至銀之改度  
又其之至銀之文字即古銀之文字不殘通  
是之也一通之綱斷中一不為也

一其至銀之候其高向多而持とい一其奇其書其書  
其書其出之如ある也其其出之其書其遠國在右者



昔先王歲銘之也年多人數迭各以書示異  
每書之亦混雜於中問安未之也妙之也  
有之也而滯而之者有也妙之也心之付之也  
右之也之所中名漢正之福到也

宣十月

善後

自和

善後

宣政曆多錯生之有而今度於京都改  
曆宣下曆辨定陣辨之也遂行新曆  
年以定之依之事之辰年之新曆頒行之  
事一也

右之通之也福也

十月

右之極之也下之系以音之也中二福到  
也

宣十月

善後

自和

善後

沸國酒造之傾是造酒造標之唱其示  
標之唱之傾也止酒造標之唱其示  
是之網其也兮振其也兮酒造人肉仲間取  
極其也兮納其也兮組合仲間其也兮止其也兮  
單其也兮其也兮其也兮



一以所求政公去凡以年以所上送年米高志  
水之造高之相定諸國一統而科於於其  
右以所求政公去凡以年以所上送年米高志  
表酒造亦止其去鑑孔水之上右以所  
者以所求政公去凡以年以所上送年米高志  
樣式右鑑孔海方之候去送年米高志  
一酒造採貨酒之候以所上送年米高志  
首更政之度河觸去之以所上送年米高志  
三ノ名月之候送年米高志以所上送年米高志  
少以所上送年米高志以所上送年米高志

一諸國酒造亦貨採之候新規付出之方在止  
是是是貨酒之候以所上送年米高志  
右以所上送年米高志以所上送年米高志  
右以所上送年米高志以所上送年米高志

第十月  
遠江  
物

以所上送年米高志以所上送年米高志

補所川拂已 作付而括別の得宜如志而事  
所正行と角所多事也の事改者中渡以故  
高上之得公限申之而不之其心以之其心  
主候是之通押暗者事黃沙之在に旅に也  
此之取心は申と事一可銀と事言に先出也  
茶屋況長尾目仰と事行燈事に江除事  
右付之元某之女娘洗女不 所成志句禱淋事  
右之振合に誰と得能解也

一通事也娘管結及增長風俗に相付傾概所  
和綿方之候尚甲申お觸所一旦お候也総  
以而女娘管結也嘗と右後世も  
此節お申分及滋味之事は是之  
お申之る系合お申と事也此に言  
世貞清又右之痛而五之打搦右解系合の故  
す之世貞公様と申之此に難と事也此に女  
は之も之も自新娘及之結は女言者  
之事也事候候と事也仰言全親類所寄  
候之能く申諭者重重此節事に依り集

和綿方之候尚甲申お觸所一旦お候也総  
以而女娘管結也嘗と右後世も  
此節お申分及滋味之事は是之  
お申之る系合お申と事也此に言  
世貞清又右之痛而五之打搦右解系合の故  
す之世貞公様と申之此に難と事也此に女  
は之も之も自新娘及之結は女言者  
之事也事候候と事也仰言全親類所寄  
候之能く申諭者重重此節事に依り集

傾城所 在女并字新旗 義兵食盛女并指別  
 主加女好名結 假也者結以假天何銀玉也  
 之也言 如狗子身 亦好假信先婦女亦應之  
 感業疾 亦政之節 亦同是也 女好結也  
 天生女所 亦之義可 亦身寄也 亦之義  
 昔假書出 亦以自我 以也亦亦 亦中波也 亦亦  
 月結 亦亦以 亦女好結也 亦同 亦者之好也  
 亦結也者 亦同 亦捕 亦亦度 亦亦付 亦同 亦上  
 亦亦也

傾城所 在女并字新旗 義兵食盛

之好名也 結以者 亦亦也 亦亦新 亦亦移 亦亦  
 他所方 假也 入也 亦亦也 亦亦也 亦亦也 亦亦也  
 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦 亦亦亦  
 後地所 亦同 假也 亦亦也 亦亦也 亦亦也 亦亦也  
 亦同 亦亦也

亦亦也 亦亦也 亦亦也 亦亦也 亦亦也 亦亦也

亦亦也

亦亦也

亦亦也 亦亦也 亦亦也 亦亦也 亦亦也 亦亦也

事身生衣履世者古結袋位者公家被  
間安公生余後黃龍清之月著之七年行計  
其書其為心以道者於五之志也其後  
右之翅之綿則之末之近亦復振節少之重

定十月

右之道上你苦間丁肉末之近而後非之意  
亦亦解之

定十月廿五日

南無觀世音菩薩

所中其元意也入世所而仕非之為度也其  
况彼之時之沛心及原其敏多之人也通  
亦之也中其衷信也之之度之亦之見通  
明也之也其別之也之也

一風吹其衣之通り之人之何例之也之也刻  
以後門之建通り之人何送り之也也

一應中不審成者通り之也之連之也也且又  
川端之細屋下之北人何也甲何也也

附如例自身者其勤也其節也其為也其若  
其少之也其也其也其也其也其也其也其也

右に道毎年中付給るは海防の要なる所  
之御所中三福知事也

寛文十一年

若狭

御領

若狭守

道に

徳山石見守事 此守事は 作付  
海防役水脚若狭守事 作付  
以昔三福御所中三福知事也

寛文十一年

道に

右に道に作付の間丁内 西渡村の三福知事

寛文十一年

御領

若狭守

右に道に新地清直地守事 町奉行生員  
建敷場所 此の守事は 若狭守事 御領  
在渡世といふ所の守事は 御領  
系立女如流女未多人 故に絶えず 若狭守  
御領 此の守事は 御領 御領 御領  
都の隠女 此の守事は 御領 御領 御領  
御領 此の守事は 御領 御領 御領



一 市南流山如雷流くく如每年来賣掛すは皆  
かゝり買物惣致進成り名所とのありて是も無  
いゝとのありて是も無事

一 買掛のて代銀濟市中とのありて是も無事  
分より入の所同銀のありて是も無事  
はとも無事

一 買掛濟市中進 奉行所に海証信問取事  
右の道毎年中付る大証如行の編所中  
を觸知り也

寛八月

若狭

遠江

南組  
惣奉行

津左衛門所

市川

菊屋所

大和屋

主方古儀此等進るは年倍多き者實に所あり  
彼進る觸度々趣也其より又出度に到り  
其行下ヶ方古儀所より海に其七年品は所  
以後も而も少く其進る者も後下所

黃世後之割方力為之仰彼之其服毛綿款  
車後或割其方力下今之商肉被一以後原之  
河經之志在守奇物付其美意也

古後米稻場之俄諸國米也後之其本在之上上  
米穀之品佳也其方力由備諸處其德之米也後  
其本在之上上黃世之道理以上其本在之上上  
高下之方力價之拍也其方力在保年中格  
別之世後也其方力之解方力之米也其買方力  
後之付米仲買方力之米也其作論也其方力  
當時之其本在之上上其本在之上上其本在之上上  
諸國米也後之其本在之上上其本在之上上其本在之上上  
其本在之上上其本在之上上其本在之上上其本在之上上  
合等停止其本在之上上其本在之上上其本在之上上其本在之上上



拂米之而得自余者米者素人同銘之身  
元限之出之也其賣買之也一普通之市場  
也其市中以米之世上米也後之也其米也  
少以百價之在總音以前付其後也米賣  
買方亦之候方唯今之通推立之候之  
者其中心波尚一統之旨也及以米賣人之  
米方身行司以米賣市場以立更信如拂  
米之介也其米賣買之也一候信之也  
右之行也其信向之候米賣一年行司之  
清言其保之也其米之候也其守新古之  
其別也其米之相合也其米之相合也其  
川之候也

但米方其米之候也其米之相合也其  
米之

一玉沃所相獲也又市先代の市候明和年中  
願清の米市場之候米賣相獲後は米賣  
流右備帳合也其組米佛米の孔也  
仕法之也其右之真加也其相合也願之  
以候也其仕法也其度右辨構仲間候  
亦停止也其米賣買之候也其米賣買

加金也而及上視者中酒之生也當時又市之既  
 定之市場若止之也故而米難通令之也又  
 定之乃其大故米市場之收也其為之新也  
 多狹之方之米收之上一日所之收也亦米之通  
 中酒之收也其乃以之收也其亦在久左也所  
 米之海右之市所市場之收也其亦在久左也所  
 唯今之通振也又市市之米收也其亦在久左也所  
 米賣買所之收也其亦在久左也所  
 後日之米收也其亦在久左也所  
 此酒之材料之收也其亦在久左也所

中酒之商也又一視之者也及向後右市場之寄  
 集之者其米也其之收也其亦在久左也所  
 斗酒之商也其之收也其亦在久左也所  
 一冊製法人之收也其亦在久左也所  
 場之所一併之收也其亦在久左也所  
 政中之市下酒也其亦在久左也所  
 各處側之市也其亦在久左也所  
 多快也遠也其亦在久左也所  
 下市之市也其亦在久左也所  
 右是也市也其亦在久左也所



一右國所新地清負地未之分初及後地亦河拂切  
又去清負地以仰付以長功所之應諸者貴  
節拂物以之長免右助成之兄這真州金銀  
高之極身之波上網事是以商都拂札  
其間包仲間組合未停止買物金銀不上網旨  
窮方能酒以行去前位地亦附在拂真州  
之令引去全地子之由處以分亦同振地成古唱  
者上網之致候于其物之者古以中波高同古者  
と及場所之拂物亦附之清負地地多之分  
也此事地成古唱者唯今之通上網之故以

但堀江地子銀之候と仰又吟喘上通る方沙  
法以

一傾城所水道買加銀之候全地代准以動高  
拂仲間高貴人未分お納以買加金銀之  
類古之法也遠以村多又此事地代古唱者唯  
今之通上網之候以  
右之通法以長表河下割之申波間矣  
不買根之觸知也

高尺片  
萬枝  
遠江  
南組  
其年寄

一 俄表之俄國之者 俄亦多之 俄國之者 俄亦多之 俄國之者 俄亦多之

一新城

但安州之...

一 曾根崎新地但

...

一 道頓堀

...

右道頓堀中村の先右... 武人宛下地... 中流右... 右中村の間一統...

但右坂拾五... 右清負人... 右中村の間一統...

卯旋新至並通生銀皮

以度是為以旋新至之示而後新穀在定  
之不自仲間祖食公梁之受涉新食是薄簡  
新穀而拘場而為極後之有以度食盛女  
附旋新至通世至者古有示而以移定  
通而守之度者至實之介何方也水素  
在料理在式通而旋新至以之成是又  
猶食以食之有食盛女之勿滿至余新食  
名同嘉抱女之示示而內旋新至日新所  
通之也成也示不五成也

右通江江表清下刻之申後以簡之度  
指之能知也如

意八月

若枝

南祖

如新至

遠江

水野若枝有極今日尚表也名表以簡  
以度乘知也也以上

意八月廿日

申下卦

南祖如新至

以度間在唱方也候有以簡通之經也  
三御并所續在方也清人候也持仲間唱也



但右取清濟世者方之補理有以而少取  
 以依規之利列之虞之有夫史難費其知也  
 自之清判料之上之道理有而少取之虞志以今  
 上之通而信也其指也其知也其對以也其理以  
 一則之信也其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 市之者其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 者之利也其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 之度量也其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 到合能也其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 濟方通也其在依規之利也其理以也其對以也其理以

依言右之第家有不能解也所辨限也波者日振  
 而而及也其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 幸之官也其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 波者通也其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 梅之志也其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 主余之應也其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 以波者止也其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 銘之親也其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 波者也其在依規之利也其理以也其對以也其理以  
 其在依規之利也其理以也其對以也其理以



其形清平之入修多一以成性之安也其心以同鋪  
以自給以生之也亦不為之候其巧之在斗均者  
亦以心而為之亦不遠也其所以果料之系亦以  
者亦以心而為之亦不遠也其所以果料之系亦以  
但中又之道中渡以連之其所以果料之系亦以  
死子之亦以心而為之亦不遠也其所以果料之系亦以  
如中又之道中渡以連之其所以果料之系亦以  
其所以果料之系亦以心而為之亦不遠也其所以果料之系亦以  
勿端亦以心而為之亦不遠也其所以果料之系亦以  
成文之亦以心而為之亦不遠也其所以果料之系亦以

右之道之鋪所中之能知也

卷八中

弟杖

南組

遠江

如年七家

近年右收之亦奇在之者其危角之故有之度候之  
心之奇在性之中意打忘者人多在次別之又及之度  
持門之國也綿化之重之七之被之七七村在性  
銘之手化之其綿果生方鋪者人而扱之室綿  
綿綿一同責別之候之有之故元綿間之及之公  
事合之亦年綿者其始公者道之在始之亦年綿  
亦合之亦年綿者其始公者道之在始之亦年綿  
亦合之亦年綿者其始公者道之在始之亦年綿





此後悔過し一室に居て日夜之悔を修む事論耳  
 此は是とて停止して夜分停止して金銀を連て觸  
 書に懸て録し物圍に負た敷あるに候書出たての  
 と自己して負加を毎一觸すおまの奇物と候に  
 此を公に所世と通すに候理を不願て己に情を  
 迷と不候あるに候而も出たてに所候事とて上  
 上若あむ答付の以音能くおんは違犯波  
 問鋪の

右は趣清園名友而古般不活者行而和以去國  
 主の趣清園の不便候為觸知停止して金銀需

と此世の味いと一而物者去を去出劫定所に  
 右は行て居る出候者也一方向候るは劫定事  
 行年違は所物違へ候味不行候事等閑に  
 候は是とておわて、而て是為紙度候  
 右は通しても觸る

二月

右は趣清園に於て作下り候事候者之觸所申  
 と觸知との也

寛八月

石見

南組

遠江

惣年寄



向て其間... 續方... 銀高... 代り...  
向て其間... 續方... 銀高... 代り...  
向て其間... 續方... 銀高... 代り...

八月廿五日  
戊子刻  
壬午年

先... 銅... 細... 備...  
先... 銅... 細... 備...  
先... 銅... 細... 備...

者... 古銅... 備... 通銅...  
者... 古銅... 備... 通銅...  
者... 古銅... 備... 通銅...

通... 備...  
通... 備...

遠江

南組  
其年子

近年世上衣食住婚万事大者後及起道  
以件質素長後之守非也 淨仁  
淨觸遊之 有皇和之締方之役先達  
所之中後主宗所元在皇者上之修等  
身以公以勇之右之守之節者之及所法  
之部之規則之數之一回在地之修之  
不傳之役之守之守之守之守之守之守之  
以節之守之守之守之守之守之守之

波久

一 取持之耐人并妻子小妻人言之 縫物綿織  
相高懸之 唐反物 花員深物 石高用  
波間鋪 年

但 同町人商 品新古地 西懸之 包製之 亦  
亦 凡有之 後後 後後 後後 後後 後後 後後  
以 懸之 在法下人 之 之 之 之 之 之 之 之  
以 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

一 借包人去 存去 男女多 正任 在任 者 之 之 之  
并 妻子 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之

但裏信色之者去毛綿痕也

一因店人各名分人分一等手手煙之成事

但此代限上同店之者去先毛並毛在觸以通

下少成事

一古信中人下女之候取持册人之古信之仕候

考細書用候而古信之候其平日之毛綿

且信色人之古信之一向未綿之毛用也

一淨用想勤申之信色信色之者毛綿之毛用筋

之毛用同勤並之毛用筋之候其毛綿

一毛用月邊立之者毛用筋之毛用清色也

持信色人之毛用別之信色毛用筋之候其毛綿

之毛用去之毛用清色也

一寺社取去勿備難留師信者山伏在當暫目

能役者不亦亦之毛用筋之候其毛綿

一三ヶ所旅之候其毛用筋之候其毛綿

通余り毛用筋之候其毛綿

毛用筋之候其毛綿

一秋舞妓役者人形也毛用筋之候其毛綿

毛用筋之候其毛綿

一其衣類之候寸之毛用筋之候其毛綿



類古結袖觸麻之類去毛絨之准之市間右後  
等之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
等之毛絨之類古毛絨之准之市間右後

右之通以度改中波間一統之音之及之遠矣

其守之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
合之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
中波之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
其守之毛絨之類古毛絨之准之市間右後

右之通以度改中波間一統之音之及之遠矣  
其守之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
合之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
中波之毛絨之類古毛絨之准之市間右後

知也

其也

其也

其也

其也

一層之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
其守之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
合之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
中波之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
其守之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
合之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
中波之毛絨之類古毛絨之准之市間右後  
其守之毛絨之類古毛絨之准之市間右後



色所觸通之此斗之解之肉實不特之而業或  
御觸出心之遠者林也之故早言所役人  
其等周分之候有右種者所好也其言  
節者而本之玉極之也其言所解之  
條理之不安仕癖之拍泥初情之盡或枝  
之俗之為之同雖此所改革之御趣意  
之表在小事者其之有教道等皆一同一  
以種努力之故之秋之象之其言所  
為之少之遠之不行而之昔之果連之也  
之少之以後所觸之少之其之也

口邊

所身寄之之遠今味之其事之方之  
幾度之少之付以候而少之也  
尚其以事明之道場也其夜見也其由  
者多之其之右之種者所好也其言  
此之風之時也其之也其之也其之也  
其在身好之也其之也其之也其之也  
夜見也其之也其之也其之也其之也  
傷而志是之也其之也其之也其之也  
但此度限之事也其之也其之也其之也

右之振念

お心なす

右通三郷中端近石原北三交り

寛永九年

津村少所

尾崎右新三郎

左方做先達言此年法是責買有而あは候所  
船渡之証もあは候又此後少別上川下ヶ方之候中  
波之基年元結並候三割方以下ヶ右内以多ヶ後及  
所好言お守寄均候有英言三也

右通中渡は集ふ者有と承知い

尚月吾有柳川安治息女精之文治事河養  
は作出

精姫君様与り年福

右文將林清妹之出續々音江江戸人作下系  
志候と承知

右通三郷中端船初也

寛永九年

尾崎

遠江

尾崎

國より大坂素新地正廻り以法兵衛物之候  
出来諸國之河望船路方自候志以路之出作之團  
是時にお初之相言多承り出候志精廻志出  
候方奉割難成節志出待と唱と候有也





似身以於總管手物我之織方之求志不為其用之  
法目連十人大使之濟國通之既至之節牛  
刑之重就門之衣服皆用如昔平日志法  
度之衣類之即是申波同安以氣於古將  
志以傳之上者重之替不付之

右之通之也

作下之系其衣類之傳也

右之通之也

衣信之信者式下人臣在下女下男下亦身

神限之衣信之上同之也

形之衣類之通之也

右之通之也

壬子年

表表

南祖  
其身書

遠江

# 一身郊身日光

所社系有法信之面之道中諸方之求志  
如自其身廣其難求之也上其身出信之高也  
實生之中間鋪之也

兼紙の書名高由の書名は分お初りて高友市付  
一諸名を因て元由候高由の書名は分お初りて高友市付  
三七人書名は分お初りて高友市付  
お初りて高友市付  
抑ては高友市付  
如く吟味の上高友市付

一高友市付  
高友市付  
高友市付

高友市付

高友市付

十月

高友市付

高友市付

高友市付

大目録

新板書相候に付高友市付  
高友市付



昔者漢書中先述其言水運之通也此是也其言  
分者之言信言者其言在後也故其言分者之言其改  
清多其言也

右通之也其船也

九月

右通之也其船也其言在後也其言分者之言其改  
清多其言也

定于一月

定于一月

右通之也其船也其言在後也其言分者之言其改  
清多其言也

右通之也其船也其言在後也其言分者之言其改  
清多其言也

右三通法... 德也 美也

宣王月 遠江

法蘭西年... 傷也... 國...

右少... 國...

多事

右通文化其年本龍宗王年

此一向王也其年本龍宗王年

主地況之深人念之遂吟味此向後如

此心志之味上之意度中村園下

而意業之旨可也

右通文化其年本龍宗王年

十月

右通文化其年本龍宗王年

右龍宗王也 萬使

宣中一月

通江

本在龍宗王也其年本龍宗王年

方而此也其年本龍宗王年

向通此度其年本龍宗王年

而之形也其年本龍宗王年

向書其年本龍宗王年

其年本龍宗王年

其年本龍宗王年

其年本龍宗王年

其年本龍宗王年

其年本龍宗王年



賣買波同銀中

一近以市中極におかれて去又市と唱名亦不知  
性事人たのふ交古道具類市賣といふ者  
不才亦少右群名而名刻性事人を買清る自  
然益物之亦不五之成も雖斗同長亦性る  
性人亦といふ方と格別様性事人を買清  
の故お止且道具類者人之所素人者市元  
亦格賣好といふ後波同銀中  
右通に三の方と名を言人といふ人言所中  
にといふ遠き程市通に

右の類ありお通に三の方といふ人又水月波同銀中  
をいふ方とも名や少く三と名にたといふ古くは  
亦といふ名あり亦中少ありといふ向といふ事

寛文十二年

通に

山廣町波同銀

名様知信の信を  
平所分七三信将

信の信

右方波同銀と名押あり者か合 右通海玉は後兼る  
弱海と名あり者物と名あり 為在名員名自波同銀

寛文十二年

久保橋所

信の信 信の信

山田波同銀

皇極經世一  
女科金函

田

日所

任

河

自

神

廣

加

甫

前

播

日所

陽

二

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

皇極經世一  
皇極經世一  
皇極經世一

仰見所

如

臣

新

皇極經世一  
皇極經世一  
皇極經世一

宣

皇極經世一  
皇極經世一  
皇極經世一

利令方是至高利者... 今股亦定... 倫方通... 右通...

宣統二年

大緯我...

右類... 宣統二年... 宣統二年... 宣統二年...

先達... 格列... 右... 宣統二年...

右... 宣統二年...

宣統二年...

宣統二年...

右... 宣統二年...





有人世渡世物より貴買系の存物志の通判の  
帳面本に記さる敷元並辰本に調方の記案又同  
而して記本も本に記さる同様の古用物本  
毎に札付の記本に記さる同様の古用物本  
と書記並に存物志の記本に記さる同様の古用物本  
假りも有人世の記本に記さる同様の古用物本  
古用物本に記さる同様の古用物本

一書方書目録に記さる同様の古用物本  
相書目録に記さる同様の古用物本

一書目録に記さる同様の古用物本  
貴買系に記さる同様の古用物本

宣子再世書

今日宗旨預所年表に記さる同様の古用物本

如左同様の古用物本

年表に記さる同様の古用物本  
所記に記さる同様の古用物本  
左方に記さる同様の古用物本  
右方に記さる同様の古用物本  
買目録に記さる同様の古用物本

村の事夜は世に極力強き懐又あり旬備  
望之身斗に多都より極く母拘致は出賣  
買致同籍

一市中人之傷所或は所取門に之を男女  
千百に力し又其時極く一錢を世貫歩行者  
在之趣お少凡俗に直付以半男女の交  
根之便お夜同籍者具節に昔古に渡金  
同所におおるに其音に及男女の交る者  
亦禁いしに相貫人清く亦昔の如く  
有制同籍

一所々毛綿を大俵子に色染織り亦毛綿  
帯地極能く見世に名産出せ事人より移り  
衣履之類も族も在り由お少の著修に導くも  
不意俵を分りて其行村に毛綿お出せ  
賣買するも若くは大脚儀方より同籍に  
出之賣出極くお少の如く度り付

一風之俵を事極拘新色染無事也近高  
亦毛生之趣お少の以高使に付高右脚系  
吹台板中間鋪む大寺お剛に仁込中間  
一博お緒之思極自らお以所法度お別

四月從

江表

作中

皇皇者重帝中波主殿一統在舟後向論之  
事立有自然和春之戲之如之往行步升如之  
室列之程之或不知雅者夫过余余言乃くと如  
市杯之唱之柳之猶自たり古堂之為之用以因  
疾之戲事と心以遠事と甲の升と表列の節  
少之者ハ習ハ情次長之後是等由物又緒緒  
負之及終之去晁料也乃之と女の是示  
親之去是乃今射役合乃之教論等用あり  
事一教乃之彼言云信信之云云問及事論ハ

一近所所家明地西又之品而之清道負地示之少兒

廿物と名唱之殿美法少歌江浦理種之  
今古と名能可舞妓之終及及江斗尼物合七集  
産料と名如とのと名と如お心市中江緯と  
拘り同以事右柳之場所ありハ神道通備  
新式と名學軍書備候昔新言日業  
亦余業是空新之肉ハ唱物江更ハ候示  
皆名如如名也右日業如名名先江進相弱  
道通と名度毎事行所ハ乃如名如名如名  
とのありとハ柳之身控江捕者重



尚表河城中在番西以高價之者河波著  
也其國之形勢而得之事法向後河城中之高  
價之買買河鋪如市中之出店見今高也  
亦多之主款清者所方既與中少者之間所  
城中之知者實史而波河鋪亦一拂方清者  
以之主店既以七百八人而後其形不波也  
右之通中酒之系向後下也者河以之波去  
勿備而之強之實買史而波河鋪亦如波  
此之形也去以味之上高者多付以公書書畫其  
市之候之形以惟上之江去是也支配遠之形也

振金也之主候月番之車行新以形也且波  
也之內出柄之秀右出候之介之手教又去實銀亦  
右想以之系去之主候別候形中清之候也  
且他亦之者之河城中以之形也  
右之通也  
右之通也  
右之通也

三綱所之盜賊多被細以之形也表表之戶  
宣十二年  
遠江  
由組  
物之形也

打破押入の絶盗杯と云く市中一箇の難敵と云り  
其事と云ふ少くも全神表裏と云く戸打破は程々盗賊  
と云く隣家の兼向側近邊と云く相音ある少くも中  
候と云く同鋪交々自光丹向の千紙亦有る云  
捕保（此の事）と云く今と云く或る常習者情状  
行成と云く氣多しと云く及録と云く所捕色といふと生身  
者此と云く中と云く不人情と云く又故自通  
賊と云く増長と云くおまの同と云く剛と云く最重と云く合  
おまお定と云く生身と云く物持と云く盗賊と云く  
持成と云く様と云くおと云く防如と云く何と云く欄捕

不の底付又云く并難と云く而云く皆之を危難盗  
賊の区と云く物音と云く少くも付と云く子通と云く生身と云く押  
音と云く生行所と云く以上と云く及と云く海と云く生身と云く及  
生身と云く及と云く物と云く及と云く捕と云く及と云く自と云く及  
氣と云く働と云く及と云く捕と云く及と云く自と云く及と云く  
相音と云く及と云く取と云く及と云く及と云く及と云く及と云く  
側と云く斬と云く及と云く隣と云く及と云く及と云く及と云く及と云く  
と云く及と云く及と云く及と云く及と云く及と云く及と云く及と云く  
不と云く及と云く及と云く及と云く及と云く及と云く及と云く及と云く  
一所と云く性年と云く及と云く及と云く及と云く及と云く及と云く及と云く

春同歌に渡並対多会却の意いして又同歌  
中合と發之と子向いして一者其も其く此に打  
不情と云不屋と極付身うつ百捕は年尚中付  
出たる方右解と動の意者有るは向に意も不  
店先又も注集あるは似て自前より初集年一  
名少おもふは者も勿論所内と者先も速新等  
と紅血とい加物いして一者極と捕るも其も  
同程と解出たては子向好いして一は流に扱  
底付た者不苦の仕儀おまゝもえ其意並夜暮り人  
も子指たの意も一被過集年一と者捕集年一

一之新子向も名流程便中の篤と似流集年一  
美と一お分事と間中辰も同おも流集年一  
意願も了と念の氣也一及所辨意いして一も不入  
情と一と一問系は少と遊と趣お少と一も及一  
味散重と一各一付の  
一市中一角一所境毎一着いして一往來人一も一  
拍子と一打の一通行人一様も一初年一自然  
後委者一流行先も一お分事と一問一應一四一  
御所中一と一右一通行一様一毎一代り一合者一は一  
通行と一と一お分事と一拍子と一打の一様一と一着人





乃有主倣不沈先有船渡通三郷町也  
當重におん以事速出舍の船令自沈  
多勢雖頻討上捕押後志必定たつ所  
おんる同う市中移り変性事人素分  
此由信之所事る町一回おんる  
人共おんる當重にお守り之由所  
信受との通り合ふておんる  
是得之海兵におんる方おんる  
年安と申論主の同篤と所傳  
中合も急度お守りる自今以後船渡と

少中渡と申お守り等聞者おんる  
と此當重にお守り対問右に懸  
旨之郷町にお守りるおんる

寛文二年

義和

申

寛文二年

一町にお守りる當重にお守りる  
分は倣志別にお守りる  
後お守りるお守りる  
後お守りるお守りる  
後お守りるお守りる  
後お守りるお守りる

首受高解觸為步行市以情愛及所辨者人  
清之捕押主野之於市行所之古連之妻  
捕遠之古古如苦之為必法之振舞手向東度  
者者之之之者之捕押押之

一所之末之之彼存白時打之之之者首知之神理  
者人之似未忙身之者者探身人宛在之也弟之德兒  
張之生性集人之之度每明通人教之之送捕  
未為打之之之人柳情愛兄之之之之德之好之  
情愛之之捕押之之會所之古連之之之之之之  
及名之法之之教拍子之之之之之會之之之連生

會捕捕之同能之之之之之之之之之之之之春之同  
別之之之之之之之之之之之之之之之之之

但之御之之之之之之之之之之之之之之之之  
六之時之之之之之之之之之之之之之之之之

一所之御之之之之之之之之之之之之之之之之  
事之之之之之之之之之之之之之之之之  
者之之之之之之之之之之之之之之之之  
一盜賊古格之式新下之定之之之之之之之之之  
月之之之之之之之之之之之之之之之之  
系之之之之之之之之之之之之之之之之

隣の事真信成を本寺に同法務立救令事連  
石清土命事公事出月以遠入法面古働  
み以て消込救令捕押令示に事連事以事余  
此の打教公事下事公事公事毎事善日徳律兼  
以心機事用之定法成之立事公右指之良事令示事  
昔至事以事少付公事事連新付以押事公  
一所之店先事而血事以事性事人物事以事武懐中  
有徳院亦血事以事者見侍事以事昔公事昔公事  
之徳院事以事近事血賊之音事以事公事公事  
捕押公事之令示公事以事行公事公事公事其公事上令示公事

事行所は事連事連事公

徳名法狼藉者事以事公事是又公日  
本寺之公付救令捕押公之令示公事以事  
本後事公之定事公初公之者公公日公事公事  
事公

少作波清清源又事

之綱公所事者所

事公事

之綱所之應首公重事以事我公事以事公事先  
事公度之觸事公事文改公事已事以事保九公事

其再應船渡立示尚座限根心以爲不嚴  
重成用物也亦如少少如得之由中事盜賊を控  
行いし強盜式往事入亦物に事案に根に  
及諸長に付以今有船渡は其後市中有人  
以遠之にため以緯方其心方亦右に懸り又  
政中渡の条を以て乘知

一所亦以盜賊得入亦有人者市威杯に  
盜賊之旨中事り相音に隣家向側と者其水  
銘と身指るに事に強盗と者其放自盜  
賊を強盗と稱力の事りとの一症付却教杯に

船渡行を近遠者亦亦の之教令に志を  
後之ん少の道存を定事向來に存指隣家  
好舟も亦亦亦入情に名仁不義成事  
司神文從事者情中并控控存亦事盜  
取多後眼亦あり及見度日他と事合与に  
以強盜に加辨に事り亦を控事に盜賊に  
控等事交別他國との名改國上亦人情  
水由法に事此地に抑り以情事及事  
先亦の船渡に道用と事廻り番令亦事重  
亦守に居るに自れに盜賊を強盗と稱

火災の事、是れ少く、互自火の事、是れ大廣に及ぶ  
 内消海の事、非水、市中、同一水、其の地  
 靜徑、船の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 等閑、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 出、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 後、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 不、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 賊、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 不、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 り、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事

進、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 而、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 等、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 夜、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 所、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 組、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 及、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事  
 悔、其の事、其の事、其の事、其の事、其の事

此後遺之  
何如  
及此度政中渡是  
其方甚  
組令町  
而後

右通上  
仲度雖在  
其子速  
組合町

西渡作  
其速  
信  
清  
渡  
文  
出  
科

三年  
二月

之  
年  
春  
新  
町

也

年  
春  
下

是志  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其

備書  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其

志  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其

願  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其

其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其

其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其

其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其

其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其

其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其

其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其

其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其  
其

漸好亦于村家之無不之者之是也上之山家散料  
為第之同之肯之及者重之改之  
一從之燕之子燕之者家之伴在揚之唱者古何  
町之限之改之之并之切所之之切之之之  
白後廊介之言古之極之之之之之  
故亦之之之是之之之之之之  
右之通之編之伴之亦之清自地之  
不使非之通之

定十二月

漸解之之之之之之

是是是是是是茶包風包茶包而貴人定是來外  
上之亦者貴者之之之之之之之之之之之之  
間近之者之之之之之之之之之之之之  
江之移移之之之之之之之之之之之之  
之物而之者之之之之之之之之之之之之  
自之之之之之之之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之之之之之之之  
一之之之之之之之之之之之之之之之之  
在之之之之之之之之之之之之之之之之  
神佛之之之之之之之之之之之之之之之之







其方古假盜賊之... 海至之... 鳥目... 造...

及射... 正...

河...

日人...

李...

傳...

水...

吉...

中...

...

一... 傳... 西... 之...

一...

銀...

但...

一...

錢...

一...

銀...

一張板銀

錢之厚又分幣

但一銅筒

右重位志年未端、相、信、而、半、為、手、極、物、也、  
去、遠、以、廣、之、以、而、出、也、後、當、之、而、以、其、心、也、  
以、年、每、年、十、二、月、款、之、正、月、中、也、之、也、  
元、在、其、中、也、

但亦在在物、假、若、以、其、遠、而、所、觸、也

通銀、其、中、一、錢、片、之、也、也、

市、中、也

一、土、言、指、其、面、而、亦、其、其、其、其、也、

如、有、其、形、亦、其、也、而、其、其、其、其、也、  
其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、也、  
其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、也、  
其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、也、

但、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、也、

其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、也、

右、其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、也、

其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、也、

其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、也、

其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、也、

其、其、其、其、其、其、其、其、其、其、也、



足出右廻リ...の倉新店先言体是...  
永斗介、幕府と張と備而水補埋...  
町人お治...  
城取...  
一の御...  
一角焼...  
向建...  
補埋...  
通着...  
減方...  
猪...  
補埋...  
向建...  
猪...  
補埋...

右海...組...  
為...  
永...  
永...  
永...

寛文十二年二月

右河海...  
長...  
長...  
長...  
長...  
長...  
長...  
長...  
長...  
長...

古同平山出張所中如指し之事有古  
之趣河邊之舟寄之末心以指者合端  
清くささるる事也

長崎指し目

伊丹屋勝之助

三宅屋町

伊丹屋勝之助

代刺 新地

古方古儀此邊の事昔昔買筋少く候  
遊り少福渡り趣之也之れ又此後此別以之  
以下古方儀中儀之其事も盡す玉其是服物

此後此別此方以下古方同の如く候而此意の  
相守奇物候之候之れ其意也

古方通り候事新し者古方被取候

東屋所

乃初尾林三高信尾

以備屋次三高

博 徳三高

古方儀此邊之事昔昔買筋少く候  
相守奇物候之候之れ其意也  
是也也

為第...  
恒介...  
力子...  
八...

主方...  
第...  
...

...

...

鳴地...

右市...  
者...

物...  
者...  
...

一、年中會所の町中、清水、高銀、清拂、夜、中、如  
如、諸、人、友、の、情、は、何、れ、の、情、に、似、て、な、ら、ず、  
事

條

一、年中會所、漸、中、の、公、録、所、に、各、年、寄、り、附、不、任、地  
望、中、村、地、分、仕、廻、り、の、事、に、於、て、各、年、寄、り、の、事、  
一、般、會、所、事、に、寄、り、味、中、村、の、飯、兼、年、寄、り、味、及、元、清  
の、事、に、寄、り、味、中、村、の、飯、兼、年、寄、り、味、及、元、清  
右、二、十、條、毎、年、今日、中、清、の、物、事、寄、り、味、及、元、清  
の、事、寄、り、味、中、村、の、飯、兼、年、寄、り、味、及、元、清



清之也

若狭

南組

惣身寄

天保四年 正月十日

送

一 清城中清加番流下へ喉を突く事あり侍少者

より所中省貸事間鋪事

一 出立事 某公人主永名仕同盛又去狼藉被成り

有る事にて撤去事

一 三月五日以後有る所の少者仲間様へ宿がら

の六つが被成度事

但所中在仕 清之少者の宿がら被成り

右五日以後被成り中同鋪事

主の氣未入りの格別事

右通三得所中へ觸知せり也

若狭

南組

惣身寄

天保四年 正月十日

送江

此等の中清年番町へ惣身寄の江巨峰

野里様へ右通に仰渡り

市中も取締宜む向今事沙汰共長盛職永

侍方にお分早免 精々世信行履に依り候事

事にあはれ上之御所行履に依り候事

及沙活... 及... 中

右... 通... 曰... 七... 日

濟城代... 濟... 活... 行... 歷... 故... 做... 一... 同... 禮... 拜... 事...

人... 亦... 為... 之... 世... 活... 行... 歷... 故... 做... 一... 同... 禮... 拜... 事... 以... 系... 於... 世... 上... 行... 歷... 故... 未... 近... 市... 道... 公... 子...

卯正月

右... 通... 是... 作... 出... 於... 東... 西... 地... 方... 濟... 後... 所... 採... 以... 左

通... 濟... 禮... 書... 村... 事... 為... 去... 公

市... 中... 也... 永... 德... 興... 向... 中... 年... 中... 沙... 活... 女... 英... 盜... 賊... 以... 綿

市... 中... 也... 永... 德... 興... 向... 中... 年... 中... 沙... 活... 女... 英... 盜... 賊... 以... 綿

方... 也... 未... 村... 於... 剛... 大... 年... 也... 世... 活... 行... 歷... 故... 未... 近... 市... 道... 公... 子...

濟... 城... 代... 採... 濟... 沙... 活... 濟... 歷... 故... 未... 近... 市... 道... 公... 子...

仕... 舍... 也... 為... 以... 去... 村... 右... 所... 禮... 在... 中... 年... 中... 沙... 活... 女... 英... 盜... 賊... 以... 綿

三... 條... 十... 四... 年... 二... 月... 六... 日

右... 所... 禮... 在... 中... 年... 中... 沙... 活... 女... 英... 盜... 賊... 以... 綿

右... 所... 禮... 在... 中... 年... 中... 沙... 活... 女... 英... 盜... 賊... 以... 綿

右... 所... 禮... 在... 中... 年... 中... 沙... 活... 女... 英... 盜... 賊... 以... 綿

右... 所... 禮... 在... 中... 年... 中... 沙... 活... 女... 英... 盜... 賊... 以... 綿

右... 所... 禮... 在... 中... 年... 中... 沙... 活... 女... 英... 盜... 賊... 以... 綿

右... 所... 禮... 在... 中... 年... 中... 沙... 活... 女... 英... 盜... 賊... 以... 綿

右... 所... 禮... 在... 中... 年... 中... 沙... 活... 女... 英... 盜... 賊... 以... 綿

津秦行樣

右通津行樣... 上... 津...

少... 津...

少... 津...

出... 津...

右... 津...

右... 津...

右... 津...

右... 津...

右... 津...

右... 津...

右... 津...

神

錢... 津...

外... 津...

布... 津...

加... 津...

外... 津...

外... 津...

外... 津...

右... 津...

山... 津...

外... 津...

外... 津...

外... 津...

外... 津...

外... 津...

外... 津...

外... 津...

鐵金銀

平脚金平名高

平脚金平名高

平脚金平名高

平脚金平名高

平脚金平名高

平脚金平名高

平脚金平名高

平脚金平名高

平脚金平名高

此度諸色車役者勿薄工手間言部多病日難復  
鐵少之也上都白部別以上引下下之候取觸以付中  
鐵取備下也之云別之所性まゝの古永徳方是交  
以紙取備下也之云別之所性まゝの古永徳方是交  
十人あむる金十人あむる金  
以違觸之也若若以方主方厚取并進之り合置持  
鐵少之也鐵取備下也之方候身之取行以之紙  
取備下也之方候身之取行以之紙

十人あむる金

近江屋守

古方在後近來錢在傷下與自之清危高價之  
到別之所惟其子亦及雖後之起在安身有古傷  
引之方之海通之論之起之名厚者其銀之多  
之鐵高相益之而相買入之包之六外之其  
素人在此中法錢在傷引之方掛引之低身貴折  
以低身物之成之有一同是云並銀之及宛之

每百斤  
今據  
...

*(Faint bleed-through text from the reverse side)*

鳴地之在

炭之安

炭之安

炭之安

每百斤

鳴地之在

鳴地之在

鳴地之在

鳴地之在

鳴地之在

鳴地之在

鳴地之在

鳴地之在

鳴地之在

平柳所之目

灰屋瓦石高

南端所

吉柳屋久高

南端所

固分屋吉高

邦島所

傳法屋知高

中町所

灰屋源高

宗島所

法分屋高

法分所

大津屋新所

中町所

平柳屋新所

小津所

平柳屋新所

高津所

三井屋高

平柳所

海部屋新所

高津所

鳴田屋高

大所

鳴田屋高

回所

鳴田屋高

南久留所

大津屋高

大川所

鳴田屋高

〇

鳴田屋高

去方古儀 出車 鏡 在 高 下 出 之 信 也 高 價 之 別 也

即 惟 之 其 難 治 之 以 起 也 亦 付 右 在 傷 川 之 方 也

故 十 人 每 日 至 七 迄 之 一 論 之 紙 之 意 厚 清 右 之 也 其 也

續 損 益 之 不 拘 銘 之 買 入 鏡 亦 以 之 右 傷 川 之 方 也 故 專

之 成 之 後 亦 指 付 之 差 也 也 玉 水 所

〇

字 和 橋 所

雅 儀 屋 之 屋 高

元 橋 所

鳴 地 屋 高

高 橋 延 吉 高

〇 月 之 拾 六 日 也

大 川 所

加 橋 屋 高

吉 柳 所

原 已 屋 高

今 橋 所

鳴 地 屋 高

海濱町誌目録

海濱町誌目録

出水町

島田屋市三郎

梶本町

子村屋宗十郎

高年藤徳三丁目

三井八右衛門

平野所或丁目

只之屋屋方右衛門

丸崎所或丁目

清地屋市三郎

島本町

八幡屋十右衛門

島本町

只之屋屋方右衛門

北濱町

山本屋村三郎

常福新地中沙丁目

橋廣屋三郎

江崎町

傳法屋五右衛門

△

右之方古儀市後十人女習屋是也中論之江東乃厚味清

右之方古儀市後十人女習屋是也中論之江東乃厚味清

川之方古儀市後十人女習屋是也中論之江東乃厚味清

右之通中一渡以各一同了茂取知以

養娘君極去曾御遊去者旨法 作下間

清幸様便以今十二日六日未九日迄唱物停止

昔清幸不若其元別之義下中其道長

下觸知也 善持 島田

介中月方

遠江

島田

光

一文恭院樣三圓清局之清法事於東嶽山所  
概以之事以為今廿二日廿八日追町中波程便  
諸事相候別白也元元又急事

一清法事申公事清法事令致清事

一清法事申著清法事亦不及相共

一清法事申著清法事亦不及相共

右之通之清町申之觸知也

正月

若校  
遠江

南組

惣年号

口達

市中之女醫術之唱者血道之療治之波儀

其不苦以交申其一下通旺能之よりと頼之應之預り

並為波儀張胎胎も其之或之在波ふ面之至り云

向後存指之儀在波ふより八頼人迄之應之遠

實方鑿金通交申付り為右之頼之清町申物

近名陳指申之波儀事

卯正月

堂

東割符人數之申為高賣長崎之死下者於

彼地之清法事之申之儀相守り板行物事也



不可買取若相岸のり有るを後日に告知せし  
と不可買取料也

一長崎の死下は岸に依る居年家には所より長崎  
下は死下より年家より引連届面は居所より中  
諸事不可清は是也

一西園は高貴の死を告る長崎の死下りとの  
左は言居年家、不承の岸に得るは長崎下  
年家、言首中は借取知るも是を所法成り  
不承岸に借取者人承は言中合  
右に細く承る言三細所中へ觸知也

外二

表様  
込込

有組  
惣年家

荷の賣の送は山名馬の唱ひとの又ハ餅之菓或ハ  
人取わつくりとの必是知さ出来尚重く教ひ送は  
不先般菓を頼港へは續或分以上を割取すは  
き首沖の由は趣違はるは付字ハ右様物免は餅之  
格者少の所も随分承は死下り言は作中  
事ハ一後ハ是を全との有るはつて或は文を以て承  
責は後ハ言用は後且如可取取ハ句備兼は以作  
か通多は難取後者ハ似類不取はつり甲問取ハ

右の趣を業解しよの爲に心得るべし

卯二月三日

出下戒り

惣年寄

今日通達町に派給るに渡辺又高橋

左通達 作渡

一御停止の類は付に候意度申付守り未  
著の旨兼成用中間交纏系未申用ハ性身以迄  
以者不申の旨是申を全所没入申中論より不申  
候意申候に付又申渡候旨兼申候作候趣  
此の趣申候候所没入申等申中渡候

右通達作渡の旨申渡候通達申中候旨申候上早  
く申渡候旨申中形掃出申候旨申候申事申候右通  
以趣申書上旨申 作渡右刻付志以通達 申候旨

卯二月三日  
牛下刻

通達尚書

少西所

諸寺院の僧侶破戒不律候付天明賞改文  
改に及遊て不律申申渡候旨申候流弊改申に  
御趣旨申厚出 作候旨申候今申候如法に僧徒多  
其時相違に右旨申候福法教師名不厚出  
論申候宗祖に戒法法教軌範を研

後之風俗也堅固相成所申建其法乃心得方  
等閑之友不家之成八拜更會自然之情之絶學  
德之相磨身勢身之相成不私怨之意你  
致遠之無愁之少欲之銷中身市中拉洋  
修行僧徒以他名宜又略服其服之者道法事道  
教令亦相見之或一課收宗祖之法云程之有  
同鋪送物小之使佛戒亦有之於世上  
風俗之推後之質素前使之便所政也憲法  
相言以之向後本寺能於他學之由福積  
是風真港之便厚之申合之未流之如法

質非之勸學他行也之積教也其戒之加四聲  
相去之其行不取斗一解不如法也之其味上  
其之其交其科尚然之其之其得也其反也  
浙仁政之浙政年身今之使後教諭其行乃交  
中付之如法質非之還也其之不也之其不其用  
其之有之其也之其主後本寺能於他學之由福積  
向後何也之其不其法之其相也之其也之其  
其月捨其重之其味乃其之其也之其得也  
其之有今般之其法之其申法之其上兩行乃不  
其而不如法之其也之其也之其也之其也之其

三為執度為情之通以三長斗以

右通從江戶以作下案案此者之公所申

之觸知也

義棧

南但

卯二月

遠江

卯年奇

井上河內省及控物系和通所役

所免者從江戶以作下案以首之所中觸

知也

卯二月

義棧

遠江

右通江作初為丁内案遠名課根入意言和觸

卯二月

南但卯年奇

阿部遠江守中世世河政年一箱一感一付一被系

府首所著書卷上作下以付也一系府

卯二月

右通江作初為丁内案遠名課根入意言和觸

卯二月

南但卯年奇

遠江守探也係系前分令女四也若執守探

以月為也次也勤也

右通江府以用淋浪身以海故一感一付一被系

如也一以所一從者以候也一為友也一以候也一以得也

卯正月

南但卯年奇

比達

猶人其佛法近年櫻相成連立市中寺外踊步  
乃之衣不着物と念又裸く家門口に立押  
施物と乞僧事と妨さる上嬉々戲論を唱  
或判しもの札を配り児女子と負入るるを  
心我佛世清後不り師と立り佛つてある間鋪  
依右故情弱に放蕩して産業と嫌ひもの多  
才子相成乞胸悲余よとしく以て寺に事し  
中田稻荷勸進任吉宗と題近年仕癖とて  
全僧侶と辨らるる且新親と依り事在り

佛の難相成たるを真意新とのを悔加波波斗式  
裸と勸進といはれ僧形と省りて寺に事し  
寺外に人々作業とを不念三衣忘り佛道と備は  
胸悲人の不給指云遠夫濫礼不持り多々如法質  
朴に修行と致且信来りて寺に於て國順禮十寺  
系不止宿為夜の趣相安右辨と僧とあり間鋪  
節と務奉り祈り守り者徳道在るに寺に事  
不衣袴と付り寺他所との改る止宿為夜者鋪の  
右と通配下りとのを省りて申渡白後云衣  
不着不り佛とのありて者事とて及海法寺

宣等閑精之氣結之成以

右通於江之表以作後方之學知之為表

形金其之勸進修行之向空之修離之唱施之

其之善所同空地清地示之亦之視之求之何之火質

除所為之善之修之願之念痛製油衣之吊我

法衣も不着修行の心或志願女子之自之公板の

との之れと修施物とをの族もあま相修の僧侶

群と其の同修不直の修之の公前之の修之

沈之と其の全心得遠之有り之修其の修之

向修能令水行古有り也修之修之修之修之

不相成以能の願可不也勸進修行の心之修之

之修之其名僧群と不之修之公得之修之修之

中波の法衣之修之修之修之修之修之修之

堅相守奉の祈書あり之修之修之修之修之

波及鋪也但之の願孔下修之修之修之修之

文政及中波之修之修之修之修之修之修之

中政年舟江之表日修鑑孔所持の修之勸進

修行の後不の修之修之修之修之修之修之

自今中波之修之修之修之修之修之修之

之修之修之

右通鞠馬大藏院下敷人租酒中渡、与為心得三  
徳所中、不渡、指、通、事

和二月

右通正、作、物、者、所、向、未、迄、不、渡、指、念、不、和  
福、正、上、和、二、月、八、日、南、組、通、事、寄

旨、加、辨、別、年、寄、下、代、惠、新、法、石、存、也

御、身、寄、野、里、四、右、左、様、分、左、通、正、作、渡、以  
御、政、正、緒、高、人、兼、藏、余、心、法、の、法、之、主、介、前、後  
と、儀、石、子、心、裁、の、以、趣、名、非、有、事、及、相、守、格、別  
寄、物、成、り、の、方、可、以、作、安、公、且、各、公、法、後、及

論、の、も、而、相、用、も、の、為、も、之、名、前、下、以、中、渡、迄、  
賃、系、と、儀、も、相、得、程、上、と、も、精、心、以、儀、百、鋪、換  
相、換、の、儀、者、之、者、之、方、毎、町、内、も、有、て、も、老、方、町、余  
申、合、平、生、世、活、の、法、之、結、成、も、指、取、事、以、可  
以、中、事、和、二、月、八、日、旨

右、南、北、寄、寄、所、  
あ、お、て、御、渡、事、以、寫

大目附口

朝鮮人、老、之、儀、拂、庭、之、高、坐、故、理、ま、の、及、大  
病、之、も、容易、用、事、難、成、身、之、享、保、事、中、の  
朝鮮、種、と、以、人、老、作、延、之、儀、所、世、活、也、と、云、ふ

次身之增長也遂為時之諸國之代是世正為也

其之類也

公儀之代也 作身之儀也其止割製法則  
之代買相止也其是也也 朝鮮種人其儀也  
謂之古也其儀也其儀也 向論賣人買也  
之為勝年也其也

右之通實政也成年十有在右觸示常和之百年十有  
當命之代野到一國之代名物河用也其也其也  
以正年又其人其拂也其高價也其下儀也其也  
及難儀也其也其也 其又向後之實政也其也其也

以通之也其得作也其儀也其常也其也其也  
之儀也其也其也其也其也其也其也

右之通下野踏與也其信儀也其後國河料也其  
代友也其也其也其也其也其也其也

十二月

右之通法也其也 作下之常也其也其也其也

其也其也

其也其也

其也其也

其也其也

其也其也

其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也





和書

和書

和書

かまじか留之秋二道意不後及成者此百連立の五果  
一斗り量に成止の云々云々云々  
指之筋と名を人、為心得あり

今日尚郷想を云々云々云々  
野里抄分所論、趣意左通所清書以上

南林の所

所清書以上

一今日所清書、趣意左通、調子  
一日、町中裏信家系、近年奇下代、尚見海、御之如

一歳、其の、長別年、中論、中

一女、髪、信、中、一男、女、衣、類、中

一清、高、賞、金、大、遠、成、守、得、板、中

一人、取、預、手、狂、物、中、一、和、名、書、同、中

一其、介、先、達、白、分、所、福、後、中、但、男、女、小、初、拜、後、後、者  
又、小、家、の、女、子、小、量、女、小、量、女、小、量、同、俗、知、る、中

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and difficult to decipher due to its cursive nature and the fading of the ink. The text appears to be organized into several lines, possibly representing a list or a series of entries. The words are written in a style characteristic of early modern European handwriting.

